

第4次ふじのくに健康増進計画 地域別計画策定にあたって② (計画期間：2024年(R6)～2035年(R17))

静岡県富士健康福祉センター 医療健康課

1

■ 前回協議会からの変更点

- (1) 数値目標項目（歯科保健関係）の修正
○次期静岡県歯科保健計画（案）と整合性をとり、
「食事のとき、噛みにくい・ほとんど噛めない人の割合」
↓
「40-50歳代における咀嚼良好者の割合」
- (2) 数値目標の目標値の設定
県計画等に基づき、目標値を設定
- (3) 取組項目見出しの修正
課題・取組の項目見出しの記載をそろえる

2

歯科保健関係指標の修正

《次期（第3次）静岡県歯科保健計画（案）より抜粋》

第3. 生活の質の向上に向けた口腔機能の獲得・維持・向上

■対策のポイント

- オーラルフレイルの認知度を増加させます。
- 生涯を通じた様々な側面からの口腔機能の獲得・維持・向上のための取組を推進します。

■数値目標

項目	現状値	目標値
オーラルフレイルの認知度	(2022年度) 24.8%	(2034年度) 50%
50歳代における咀嚼良好者の割合	(2020年度) 83.5%	(2034年度) 90%

《次期 歯・口腔の健康づくりプランの目標と指標一覧（案）より抜粋》

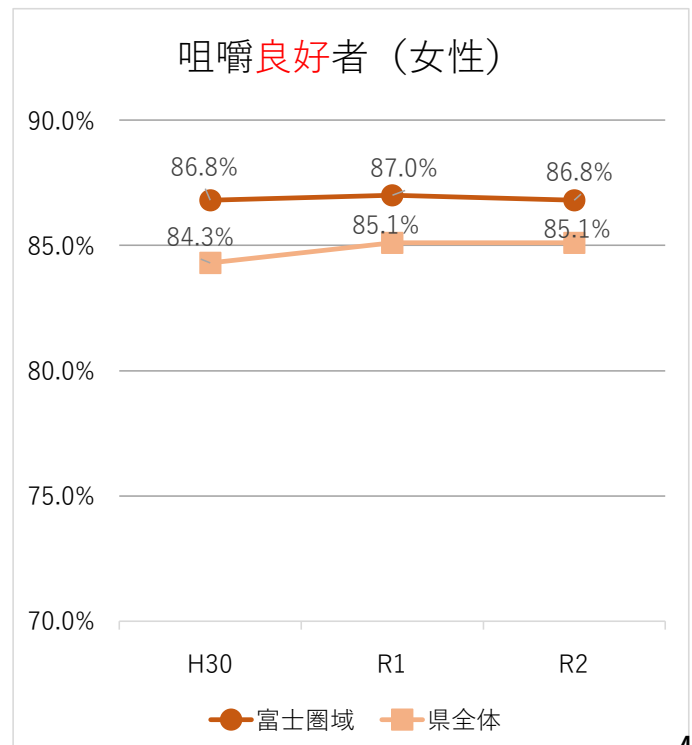
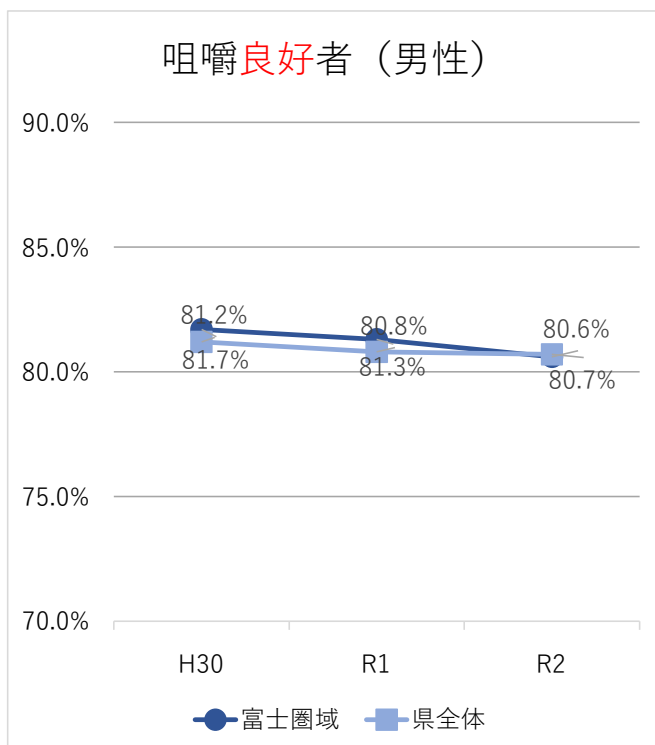
目標	指標	目標値
第3. 生活の質の向上に向けた口腔機能の獲得・維持・向上		
- 生涯を通じた口腔機能の獲得・維持・向上の達成		
① よく噛んで食べることができる者の増加	50歳以上における咀嚼良好者の割合	80%
② より多くの自分の歯を有する者の増加	40歳以上における自分の歯が19歯以下の者の割合（再掲）	5%

圏域の目標
 (前回の資料) 食事のとき、噛みにくい・ほとんど噛めない人の割合
 ↓
40-50歳代における咀嚼良好者の割合
 (富士圏域は40-50歳代男性に課題あり)

3

■ 「④80歳で20本の達成割合」に対応した富士圏域の課題の設定
 ⇒ 食事のとき、何でも噛んで食べることができる人（咀嚼良好者）の状況

圏域の状況
 ■ 80歳で20本の達成割合は不明。
 ⇒ 歯を喪失する原因として、う蝕（虫歯）、歯周病が考えられる。
 ⇒ 歯の喪失により、咀嚼の課題が発生すると考えられる。



「④80歳で20本の達成割合」に対応した富士圏域の課題の設定

⇒ 食事のとき、何でも噛んで食べることができる人（咀嚼良好者）の状況

圏域の状況

■ 富士圏域では働き盛り世代から咀嚼に課題を抱えている人がいる

⇒咀嚼に課題を抱えているのは男性に多い。

⇒働き盛り世代（特に40-59歳）の咀嚼良好者割合は、県全体と比較して低い傾向。

○男性

(%)

	40-44歳		45-49歳		50-54歳		55-59歳		60-64歳		65-69歳		70-74歳		計	
	圏域	県	圏域	県	圏域	県	圏域	県	圏域	県	圏域	県	圏域	県	圏域	県
H30	87.8	89.3	85.8	87.3	81.4	84.5	80.6	81.6	78.7	78.9	79.8	76.7	77.7	75.6	81.7	81.2
R1	87.7	87.9	85.1	85.5	80.3	82.4	78.7	79.5	77.9	77.4	77.4	75.7	78.4	75.0	81.3	80.8
R2	87.1	88.1	84.8	85.6	80.4	82.3	77.9	79.6	77.6	77.1	75.8	75.1	76.8	74.0	80.6	80.7

○女性

(%)

	40-44歳		45-49歳		50-54歳		55-59歳		60-64歳		65-69歳		70-74歳		計	
	圏域	県	圏域	県	圏域	県	圏域	県	圏域	県	圏域	県	圏域	県	圏域	県
H30	91.7	91.7	90.7	90.4	89.6	88.6	87.3	86.0	86.4	84.7	85.8	81.4	83.1	79.9	86.8	84.3
R1	91.8	91.4	90.4	89.7	88.7	87.4	85.3	85.1	86.0	84.0	85.0	81.1	81.1	79.6	87.0	85.1
R2	91.8	91.2	90.5	89.8	87.8	87.9	85.7	85.1	86.2	83.9	83.8	80.6	80.5	78.9	86.8	85.1

出典：特定健診・特定保健指導に係る健診等データ報告書

■ 県全体より圏域の方が割合が低い

5

「④80歳で20本の達成割合」に対応した富士圏域の課題の設定

⇒ 食事のとき、何でも噛んで食べることができる人（咀嚼良好者）の状況

圏域の状況

■ 富士圏域では働き盛り世代から咀嚼に課題を抱えている人がいる

⇒働き盛り世代（特に40-59歳）の咀嚼良好者割合は、県全体と比較して低い傾向。

○男女計

(%)

	40-44歳		45-49歳		50-54歳		55-59歳		60-64歳		65-69歳		70-74歳		計	
	圏域	県	圏域	県	圏域	県	圏域	県	圏域	県	圏域	県	圏域	県	圏域	県
H30	89.2	90.3	87.6	88.5	84.4	86.2	83.3	83.5	82.4	81.8	83.0	79.3	80.7	78.0	84.0	82.7
R1	89.4	89.4	87.4	87.3	84.0	84.7	81.7	82.0	81.7	80.5	81.1	78.4	79.9	77.4	83.9	82.8
R2	89.0	89.4	87.3	87.4	83.6	84.8	81.5	82.1	81.5	80.2	79.6	77.9	78.7	76.5	83.4	82.7

R2
(直近値)

40歳代

圏域 88.1%
県 88.3%

50歳代

圏域 82.6%
県 83.5%

40-50歳代

圏域 85.4%
県 86.0%

出典：特定健診・特定保健指導に係る健診等データ報告書

■ 県全体より圏域の方が割合が低い

6

■ 富士圏域 地域別計画の数値目標（案）

主な指標	現状値 (2023年度)	目標値	目標値の根拠
習慣的喫煙者の割合	(2020年) 40-74歳 男女計 24.8% 男性 36.6% 女性 11.3%	(2035年) 40-74歳 男女計 18.3% 男性 27.6% 女性 7.8%	・国の目標値の考え方に基づく。 ・喫煙をやめたい人がやめた場合の数より算出。
高血圧有病者の割合	(2020年) 40-74歳 男性 43.7% 女性 32.8%	(2027年) 40-74歳 男性 38.3% 女性 28.9%	・国の目標値の考え方に基づく。 ・2020年の健診データから収縮期血圧・拡張期血圧をそれぞれ5mmHgの下げた時の高血圧有病者の数より算出。
がん検診精密検査受診率	(2019年) 胃がん 85.1% 肺がん 78.0% 大腸がん 73.1% 子宮頸がん 68.0% 乳がん 96.3%	(2029年) 全項目90%以上	・国の「第4期がん対策推進基本計画」の目標値による。 ・圏域地域医療計画による。
肝炎ウイルス検診精密検査受診率	(2021年) 39.1%	(2035年) 90%	・県計画等指標設定なし。 ・現計画目標値を踏襲。
重症化予防担当者研修会の開催	(2022年) 0回/年	(2035年) 1回以上/年	・未実施⇒実施。
40-50歳代における咀嚼良好者の割合	(2020年) 40-59歳 85.4%	(2035年) 90%	・第3次静岡県歯科保健計画素案による。

《数値根拠》

- ・「習慣的喫煙者」「高血圧有病者」「咀嚼良好者」：特定健診等データ報告書（現状値R2）
- ・「がん検診精密検査受診」：がん検診実施結果（地域保健・健康増進事業報告）（現状値R1）
- ・「肝炎ウイルス検診精密検査」：健康増進事業聞き取り調査結果（現状値R3）

7

■ 習慣的喫煙者の割合の目標値の算定について

《健康日本21（第三次）推進のための説明資料より》

① 喫煙率の減少（喫煙をやめたい者がやめる）

指標	20歳以上の者の喫煙率
データソース	国民健康・栄養調査 ※たばこ「毎日吸っている」又は「時々吸う日がある」と回答した者を集計 ※たばこは紙巻きたばこ、加熱式たばこ、その他のことをいう（電子たばこは含まない）。
現状値	16.7%（令和元年度）
ベースライン値	- %（令和6年度：令和6年国民健康・栄養調査予定）
目標値	12%（令和14年度）

令和元（2019）年の国民健康・栄養調査では、20歳以上の喫煙率（現在習慣的に喫煙している者の割合）は16.7%、現在習慣的に喫煙している者のうちたばこをやめたいと思う者の割合は26.1%であった。令和元（2019）年の現在習慣的に喫煙している者のうち、やめたい者がすべてやめた場合の喫煙率を算出すると12.3%（16.7%×（100-26.1%））となる。

また、健康日本21（第二次）でも同様の考え方にに基づき目標値を12%としていたが、最終評価時点（令和元（2019）年値）で目標値に到達しなかった（目標設定年度（令和4（2022）年度）までの目標到達も危ぶまれた）。以上を踏まえ、目標値は引き続き12%とする。

《国データ》

令和元年国民健康・栄養調査結果より

「習慣的に喫煙している者のうち、たばこをやめたいと思う者の割合」

男性：24.6%
女性：30.9%
合計：26.1%

圏域の目標値

現在の喫煙者から「たばこをやめたいと思っている人の割合」（国データ利用）を差し引いた割合

男女計 $24.8\% \times (100 - 26.1\%) = 18.3\%$
男性 $36.6\% \times (100 - 30.9\%) = 27.6\%$
女性 $11.3\% \times (100 - 30.9\%) = 7.8\%$

8

■ 高血圧有病者の割合の目標値の算定について

≪健康日本21（第三次）推進のための説明資料より≫

② 高血圧の改善

指標	収縮期血圧の平均値（40歳以上、内服加療中の者を含む。）（年齢調整値）
データソース	国民健康・栄養調査 ※血圧を下げる薬の使用者含む ※40歳以上を集計予定
現状値	131.1mmHg ※男性 133.9mmHg、女性 129.0mmHg （令和元年度：令和元年国民健康・栄養調査（特別集計）） 133.6mmHg ※男性 136.9mmHg、女性 131.2mmHg （平成30年度：平成30年国民健康・栄養調査（特別集計）） ※平成30年までは水銀血圧計、令和元年以降はハイブリット血圧計を使用
ベースライン値	- mmHg（令和6年度：令和6年国民健康・栄養調査予定）
目標値	ベースライン値から5mmHgの低下（令和14年度） ※令和6年国民健康・栄養調査の結果を用いて具体的数値を設定予定

圏域の目標値

- ・ 県計画では、データヘルス計画とも整合性をとり「高血圧有病者*の割合を下げる」ことを目標とする。
- ・ 国の指針に基づき、2020年特定健診データの収縮期血圧と拡張期血圧をそれぞれ5mmHg下げた時の、高血圧有病者の割合を目標値として、県健康政策課にて目標値を算出。

男性 38.3%
女性 28.9%

* 高血圧有病者とは（特定健診データ報告書より）
収縮期血圧が140mmHg以上、または拡張期血圧が90mmHg以上の者
もしくは、血圧を下げる薬服用者

9

■ 40-50歳代における咀嚼良好者の割合の目標値の算定について

≪次期（第3次）静岡県歯科保健計画（案）より抜粋≫

第3. 生活の質の向上に向けた口腔機能の獲得・維持・向上

■ 対策のポイント

- オーラルフレイルの認知度を増加させます。
- 生涯を通じた様々な側面からの口腔機能の獲得・維持・向上のための取組を推進します。

■ 数値目標

項目	現状値	目標値
オーラルフレイルの認知度	(2022年度) 24.8%	(2034年度) 50%
50歳代における咀嚼良好者の割合	(2020年度) 83.5%	(2034年度) 90%

圏域の状況

- 富士圏域では働き盛り世代から咀嚼に課題を抱えている人がいる
⇒咀嚼に課題を抱えているのは男性が多い。
⇒働き盛り世代（40-59歳）の咀嚼良好者割合は、県全体と比較して低い傾向。

圏域の目標値

県計画では、「50歳代における」だが、富士圏域の地域の状況を勘案し、40-50歳代における咀嚼良好者の割合とし、目標値は県の目標値と同様とする。

	富士圏域	静岡県全体
40歳代	88.1%	88.3%
50歳代	82.6%	83.5%
40-50歳代	85.4%	86.0%

10

地域別計画構成

■ 対策のポイント

■ 数値目標

1 現状

- (1) 禁煙・受動喫煙防止対策による生活習慣病の予防
- (2) 高血圧有病者の増加抑制と新規人工透析導入患者数の減少
- (3) がん検診及び精密検査受診率の向上によるがん死亡率抑制
- (4) 歯周病予防から始まる生活習慣病の予防

2 課題

- (1) 禁煙・受動喫煙防止対策による生活習慣病の予防
- (2) 高血圧有病者の増加抑制と新規人工透析導入患者数の減少
- (3) がん検診及び精密検査受診率の向上によるがん死亡率抑制
- (4) 歯周病予防から始まる生活習慣病の予防

3 取組

- (1) 禁煙・受動喫煙防止対策による生活習慣病の予防
- (2) 高血圧有病者の増加抑制と新規人工透析導入患者数の減少
- (3) がん検診及び精密検査受診率の向上によるがん死亡率抑制
- (4) 歯周病予防から始まる生活習慣病の予防

項目名を
同一の
記載に

○ 指標検討表（県計画非掲載）